

地域医療の充実に向けた整備

JCHO登別病院については、車いすを利用する方や高齢者など、さまざまな方の利用が見込まれますので、歩道をバリアフリー化するなど、病院につながる道路整備については、2020年4月予定の開院に支障がないよう進めていきます。



▲道路整備が進む登別東町

新たな観光資源の活用

民族共生象徴空間の開設については、登別白老観光連絡協議会や北海道登別洞



爺広域観光圏協議会などと連携し、民族共生象徴空間を胆振全体の貴重な地域資源としてとらえ、国が掲げる来場者100万人の目標達成に向けて誘客促進に努めるとともに、民族共生象徴空間と登別温泉を結ぶ鉄道やバス

などの公共交通の利便性向上や観光客の受入環境整備、アイヌ文化の振興を図るため、国などの有利な支援制度の活用に向けた検討や関係機関との協議を進めていきます。

持続的な魅力の確保

本年はカルルス温泉が開湯し、120年という記念すべき年を迎えます。カルルス温泉は、昭和32年に北海道初の国民保養温泉地に指定され、登別温泉とは風情の異なる閑静なたたずまいの温泉地として歩みを続けているほか、昭和38年に開設された現在のカルルス温泉サウナバススキー場は、冬季の登別観光の魅力の一つとなっています。

しかし、同スキー場は、リフトなどの設備の老朽化が著しく、更新などに多額の費用を要することから、将来にわたって安定的に経営するため、平成31年度末までに経営戦略を策定していきます。



▲市民や観光客だけでなく、学校や観光客が楽しめるスキー場。冬のカルルスバス



走り続けるまち『のぼりべつ』
～まちづくりを加速させる機への備え～

平成31年度の市政執行にあたっての基本的な方針の一端を申し上げましたが、本年は、平成という一つの時代が終わり、新時代の幕開けとなる大きな節目の年です。

そして、その翌年には、市制施行50周年という当市にとってまちづくりを加速させる、またとない機が到来します。市



▲昭和45年に市制施行を祝い、市内各所で行われたパレード



▲市制施行50周年に向けた取り組みを進めるため、市内の約50団体で設立された『登別市市制施行50周年記念事業市民実行委員会』

制施行50周年に向けた取り組みでは、まちの発展とさらなる飛躍への決意のもと、市制を施行した先達の思いをしっかりと受け止め、これから待ち受ける困難に市民の力を結集し、乗り越えるため、まちの魅力や資源を再認識し、市民・企業・団体など、全ての関係者が主体的に協働することが肝要です。

私たちのまち『のぼりべつ』が、新たな元号の時代を力強く駆け抜けるためには、人口減少・少子高齢社会の進展や頻発する災害の発生に対応しながら、走り続けるための足場を構築するための備えをしていく必要があります。

平成から新元号へと時代が動くこの時にあつて、万感と感謝の思いを抱きながら、明日に向け、さまざまな主体が自己の果たすべき役割分担のもと、今できる、今から取り組むべき備えを市民の皆さんと取り組んでいきますので、議員の皆さん、市民の皆さんのご理解とご協力をお願い申し上げます。